14 代表的な希少植物2種の現状と保全
サガミジョウロウホトトギス ①

2000年代の調査

サガミジョウロウホトトギス（以下、サガミ）は、1957年に発見され、翌年トサジョウロウホトトギスの変種として北川・小山（1958）により記載されました。その後、大井・奥山（1962）により独立種とされました。近縁種には静岡県と山梨県の県境部に知られるスルガジョウロウホトトギスがあります。

サガミ（左）と　スルガ（右）

自然環境保全センターは2004年～2005年に行われた丹沢大山総合調査時に維管束植物グループ（リーダー：勝山輝男氏〔生命の星・地球博物館〕）に加わり、勝山氏とともにサガミの個体数を2004年に調べました。その結果、X沢とY沢の2流域に合計500～1,000個体程度あると推定されました。

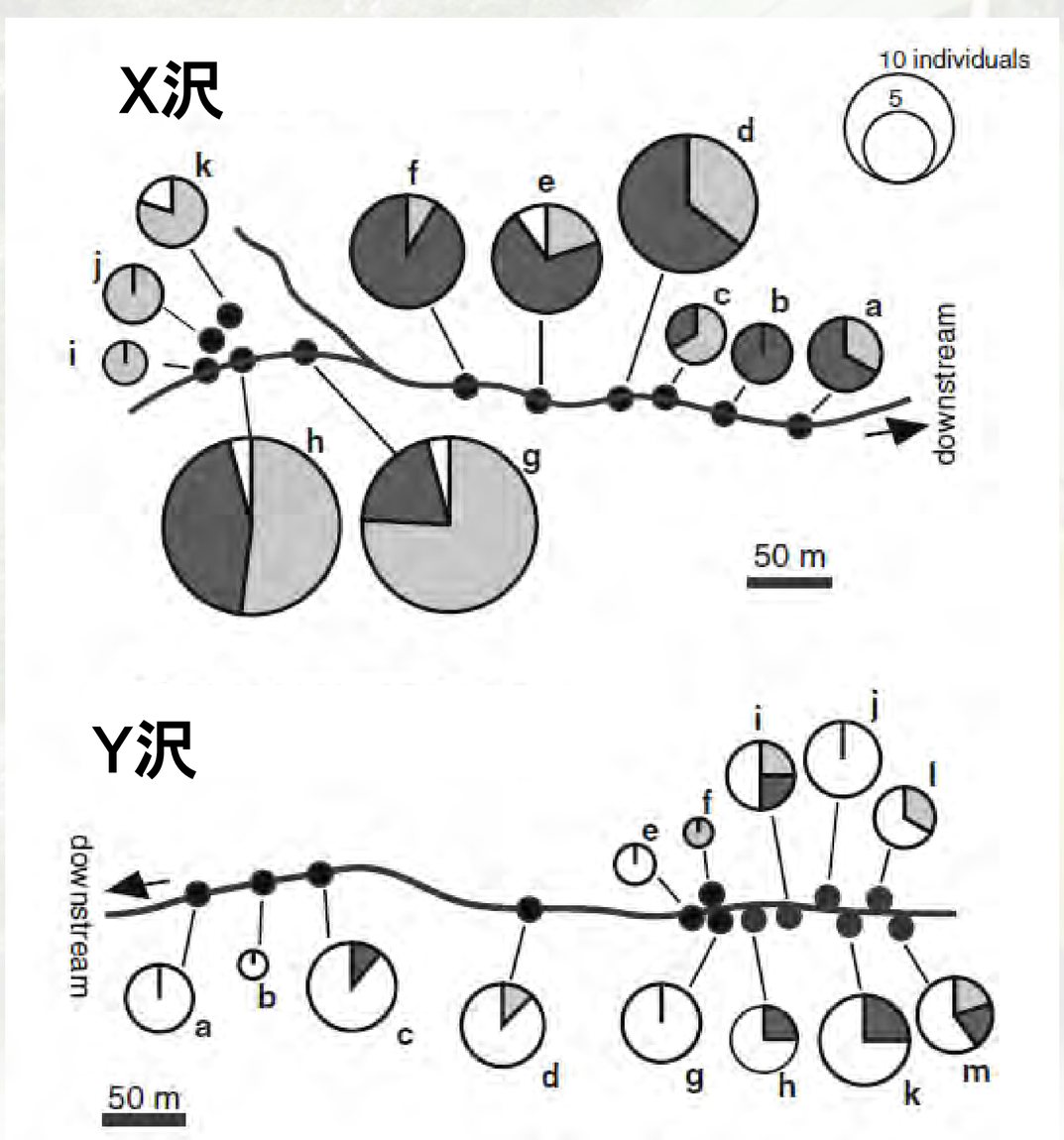


図　X沢とY沢の集団の遺伝的組成

円グラフのアルファベットは生育地点を、その大きさは個体数を表す。

⇒円グラフの色の構成比率が似ているほど、遺伝的に近いことを表す。

Setoguchi et al. (2011)より

また、2007年にはX沢とY沢から計169個体の葉のサンプルを採取して（許可を取って）、 京都大学の専門家に遺伝的変異を分析してもらいました。その結果、次のことがわかりました。

- 2集団は遺伝的多様度を高いレベルで保持
- 2集団は遺伝的差異あり、集団内ではほぼ同質
- 2集団は外交配に由来する種子繁殖で世代交代

このように、個体数も多く、遺伝的変異も高いことから、良好な状態であると判断されました。

なお、サガミは、丹沢大山国定公園の指定植物になっており採取は禁止されています。また2020年2月に「種の保存法」に基づき、環境省特定第一種国内希少野生植物種に指定され、採取はもちろん販売や譲渡も禁止されています。

14 代表的な希少植物2種の現状と保全 サガミジョウロウホトトギス ②

2020年の調査

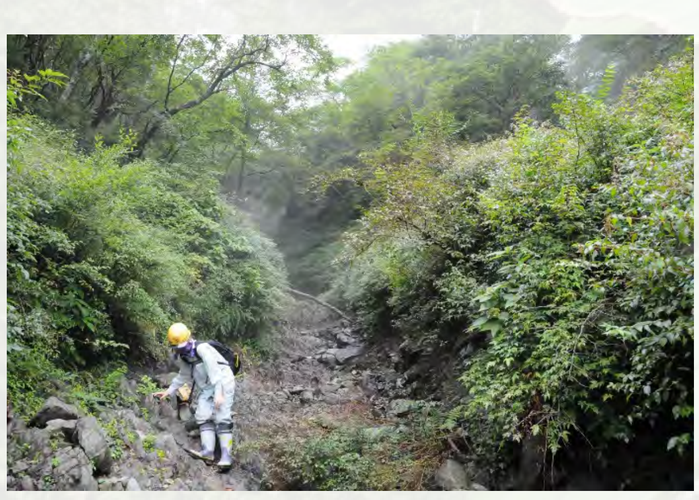
（ア）X沢での調査

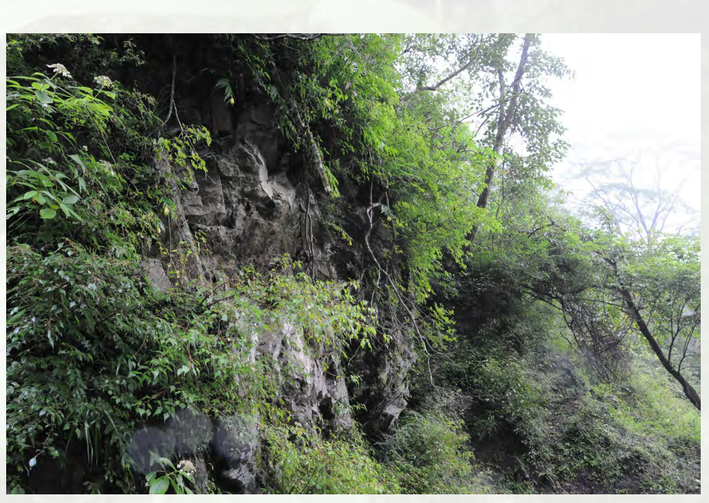
倒木上に生育する個体
（つぼみあり）

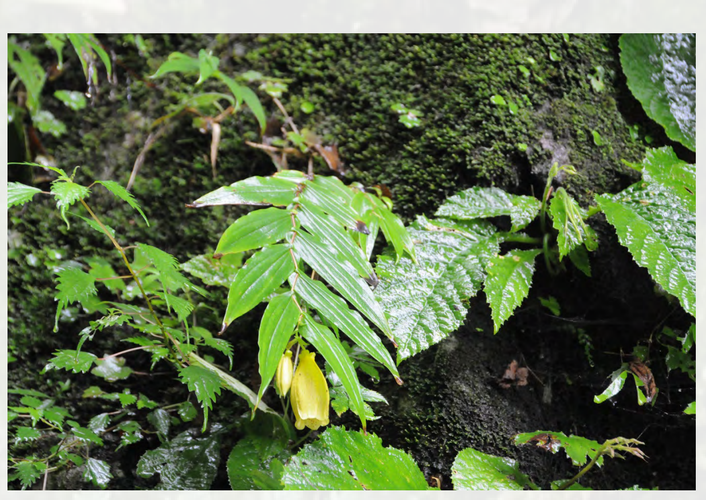
結　論

2000年代と同レベルの個体数があると推定され、良好な状態と判断されました。特段の保全対策をするよりも、定期的な見守りで良さそうです。

（イ）Y沢での調査



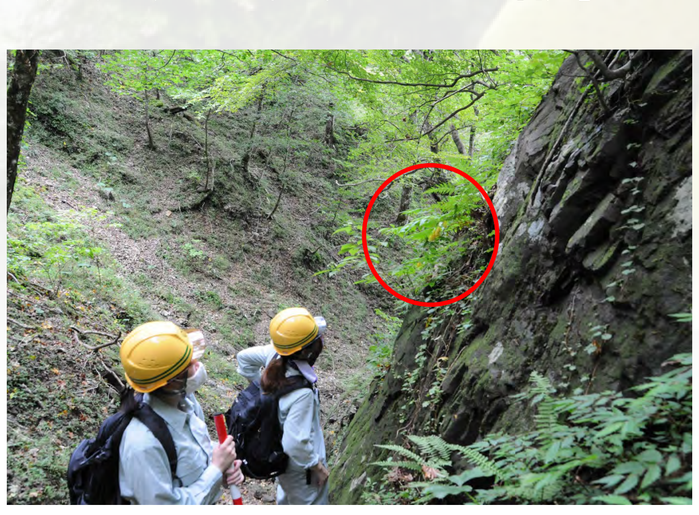




このような岩壁に垂下

X沢とY沢で個体数の概数を調査したところ、X沢では550～750個体、Y沢では250個体と見積もられ、合わせて800～1,000個体あると推定しました。2000年代と同程度の個体数で推移しています。

（ウ）Z沢での調査



新たな自生地の個体を見つめる女性職員

X沢とY沢は以前から植物愛好家の間では知られていた自生地でした。流域の異なる近隣のZ沢にもあると推測して探索したところ、予想どおりサガミを発見することができました。新たな自生地です。ここでは25個体を確認しました。